



のぞいてみよう!
“プロ”と呼ばれる人々の仕事。



平成29年度 若年技能者人材育成支援等事業

学校向け





事例 5 池田精工株式会社

取得技能
機械加工（マシニングセンタ作業）2級技能士

技能士

牧 愛子

AIKO MAKI

製造2課



プログラムの組み方に正解はない、
正解がないからこそ面白い



会長から現場で機械を扱ってみないか と言われたのがきっかけ

私は商業高校の出身です。最初の就職先では検査員の経験がありましたので、こちらの会社に再就職するに当たっても、検査員の職種で応募しました。面接して会長から、現場で機械を扱ってみないかと言われたのが、今の仕事に就くことになったきっかけです。

私が手がける仕事は、結構難しい加工が多いのですが、それをちゃんとつくり上げたときの達成感は大きいです。私の場合、一点物ではないのですが、1つのものに対して1つのものを作り上げるということが多いです。ものによってはかなり時間もかかります。それがちゃんと完成したときがやはり一番嬉しいです。

同期の人々に誘われて技能検定を受検 同期に負けたくないという気持ちで取り組む

技能検定を受けたきっかけは、同期で入った人から一緒に受けようと言われたことがきっかけでした。しかし、内心同期には負けたくないというのが本音です。受検したのは3級からでした。今は2級の資格を持っていますが、1級はまだ受けていません。そろそろ受けたいなとは思っていますが、仕事が忙しいためタイミングを見つけるのが難しいです。

私の場合、仕事で毎日新しい図面を見ています。加工時間の長いものを手がけることも多く、図面に細かな指示があるものや、加工時間がかかる段取りもあり、1日が終わるのが早いです。

技能検定の筆記試験の準備は、集中するために休みの日に勉強していました。選択問題なので同じ問題ばかりやつていると上から順に答えだけ暗記してしまうので、問題の順番を変えてみたりして勉強しました。選択問題というのは難し



いです。私の場合、過去の問題をやっても解答だけを暗記してしまう癖があるので、そこの取り組み方が難しかったです。実技については、仕事が終わったあとに機械を使わせてもらっていました。個人的には筆記試験の準備のほうが大変でした。

加工が難しいものには気が張るが、 ちょっと気が緩むと失敗する

ものづくりには、何も加工していないまっさらなものを自分の力で加工して仕上げるという楽しみがあります。その反面、厳しさや苦労もあります。金属加工の場合、「はめあい公差」というものがあります。これは許容される寸法のずれのことですが、「Φ2のH7」などはかなり公差が厳しく、そういうものを加工するときはやはり苦労することもあります。加工の条件などを模索しながら、特に穴が深かつたりすると加工条件を考えたりします。その辺りでかなり苦労はします。

また、マシニングセンタの場合、プログラムの組み方も人それぞれで、好みなども出てくることがあります。組み方にしては正解はないです。逆に、正解がないのが面白さでもあります。

て、先輩のプログラムも後輩のプログラムも皆それぞれに個性が出ています。

加工に時間がかかるものを手がけるときには、1日で終わらざるを得ないこともあります。会社にいる間に終わらないので、あとは機械に任せて帰るということもあります。そんな時は次の朝ドキドキしながら扉を開けたりします。加工が難しいものには気が張るのですが、ちょっと気が緩んだりしたときに失敗することもあります。

できなかったことができるようになると、 次にできないことが見つかる

何年たっても覚えることのほうが多いです。それまでできなかったことができるようになると、次にできないことが見つかってきます。それにもっと良い加工方法があるのかもしれませんとか考えながら仕事をしています。

これから就職をしようと考えている人たちには、是非ものづくりの面白さというのを味わってもらいたいです。1つの難しいものをつくり上げた時の喜びというのは、つくった者にしかわからないと思います。ものづくりはこれからも絶対になくならないものですから。

当社の技能がどれだけあるかというエビデンスとして、技能検定は重要なものの

代表取締役の声

当社はステンレスの加工を事業として行っており、主力となっているのは飲料や医薬品の製造装置の部品の製造です。飲料や医薬品の製造装置の部品というと、小さな傷などでも菌が繁殖しやすくなってしまうために、加工した面をきれいに仕上げることなどが非常に重要になります。また、寸法、精度についてもかなり精密なものが要求されますので、相当の技術、機械設備等が必要になる業種です。いわゆる、オンリーワンの企業だといえます。

従業員の数は全体で70名程度です。ここ鏡野町に拠点を構えるに当たって人員も増やしたりしましたので、比較的この工場は若手の社員が多く、年齢層も30代を中心となっています。



代表取締役 池田 英雄 HIDEO IKEDA

技能と応用力を身につけるための手段として技能検定を十分に活用

当社の場合、本当の意味で技能を要する職種になります。それと大量生産の業種ではなくて少量多品種、試作開発品から一品物の加工が多く、一連の流れを考えればいいということではなく、いろいろな応用を利かせないといけません。こうした技能と応用力を従業員が身につけるための方法の1つとして、当社では技能検定を十分に活用しています。しかしながら、従業員は皆日々忙しくしているために、実際には、OJTを

基本的としつつ、さらに技能を高めるための手段として技能検定を活用しているというような状態です。

技能検定の毎年の受検者数は3名から5名ほどです。受検料は基本的には自己負担としています。しかし、技能検定に合格すれば、取得級に応じて夏と冬の賞与で報奨金を支給しています。一度取得したら毎年ずっと支給します。毎年支給されますので、かなり大きな収入となるはずです。

自分で考えてわからなければ、聞いて解決するのが原則

従業員の間での技能の指導、伝承という点について言えば、現状ではやはり職的な人間が多いこともあって、とりわけ伝承については苦労している面があります。本当に技能の高い先輩方が多いとは思うのですが、それをうまく次の若い世代に伝承していくことがどうしてもスムーズにいかないところがあります。

もちろん、先輩方に質問しにくい雰囲気のようなものはあ

りません。わからないことは聞けば教えてくれる雰囲気があります。もつとも、1から10まで教えるのではなくて、考える力も大切にしています。当社の場合どうしても日用の品物とは違うものをつくるので、そういった考えるところが重要なってくるかと思います。ちゃんと自分で考えてわからないのであれば、聞いて解決するというのは当然のことだと思います。

技能士の存在は、対外的には非常に重要なPRポイント

技能士のレベルも上のほうになっていくと、加工のことだけではなく、その他の知識も身につければ合格することができます。そういう知識が広がるというのは、会社に大きな貢献をしてくれます。また、技能士の存在というのは、対外的にはこれだけの技能者がいますという非常に重要なPRポイントになっています。

ステンレスというのは加工の難しい材質です。曲げにく

かつたり、切削のひずみが生じたりします。また、当社では、市場の要求が多くなってきたことを受け、ステンレスに限らずチタンなどのもっと難しいものも数多く手がけるようになりました。当社で受注している仕事は県外のほうが圧倒的に多く、全国から注文を受けています。これも、当社の技術・技能がある程度お客様に認められたおかげではないかと考えています。

どこまで成長しているのか、それを測るには技能検定が重要な手段

当社は大きい会社ではないので、完全な教習体制が備わっているわけではなく、OJTが主流になっています。そこで重視するのは、コミュニケーションをしっかりとるということです。人材育成のシステムがないことから、どこまでできるのか、どこからができないのかという判断が難しいです。どこまで成長しているのか、成長していないか、そういうところを測るには、やはり技能検定が重要な手段になっていると思います。その意味では、若い人たちには、どんどん積極的に技能検定に挑戦してもらいたいと思います。

将来的には全員何らかの資格を持っているということが、対外的には大きなPRになります。当社の技能がどれだけ

あるかというエビデンスとして、技能検定は重要なものであると思っています。



Company Profile

企 業 名：池田精工株式会社
〒708-0331 岡山県苫田郡鏡野町布原297-6
業 種：金属加工
設立年月：1972(昭和47)年4月
資 本 金：4,500万円
従 業 員 数：71名
主な業務等：食品・医薬品・化学繊維等の製造用機械の部品、盲人誘導用点字録、液晶、半導体製造装置部品



■ 技能検定年間受検者数

年度	受検者数	合格者数
2015(平成27)年度	3名	3名
2016(平成28)年度	—	—
2017(平成29)年度	3名	1名

■ 技能士数

職種名	作業名	1級	2級	3級
機械加工	マシニングセンタ作業	4名	2名	2名
機械加工	数値制御旋盤作業	2名	—	6名